No. 17-9

事務事業評価シート１－１　　□は、プルダウンメニューから選択

事務事業No.	17 － 9

事業分類	☑ ソフト　□ ハード　□ 必需	公的関与	2	作成日	27 年 4 月 30 日
事務事業名	図書館運営事業			シート作成部署	
総合計画上の位置付け 基本施策	3　心豊かなまち			課名	社会教育課　係名　生涯学習係
	3-1　生涯学びのあるまちをつくる			シート作成者	
施策	3-1-3　生涯学習の推進			予算費目 会計	一般
				款	10
主要施策	②　図書館の充実			項	5
				目	4
個別計画名	東員町子ども読書活動推進計画				
住民との関わり	住民団体・行政との共催事業・イベント				

事業の対象・目的・内容

対象（誰を、何を）	目的（どういう状態にしたいのか）
町民（図書館利用者）	図書を中心に町民が様々な学習のできる場を提供する。

事業内容（どのような方法で、何を行うのか）

必要な資料（図書、雑誌、ＡＶ資料等）の収集、整理、保存を行うことを基軸として、閲覧サービス、貸出・予約サービス、リクエストサービス、他館との資料相互貸借を行うほか、レファレンスサービス（調べ物のお手伝い）、複写サービス等を行う。不用図書等については年１回「リサイクル会」を開催し有効活用を図っている。

また、子ども読書活動を推進するため毎月２回（第２・第４土曜日）ボランティア団体による「読み聞かせ会」を開催している。

事業期間	昭和 □　平成 ☑　１年度　～　平成　年度（　年間）　☑ 期間設定なし
根拠法令・要綱等	図書館法

		平成25年度（決算）		平成26年度（決算）		平成27年度（予算）	
全体事業費（千円）A+B		26,776		26,776		26,538	
財源内訳	国庫支出金	0		0		0	
	県支出金	0		0		0	
	地方債	0		0		0	
	その他特定財源	0		0		0	
	一般財源	11,079		11,698		11,460	
直接事業費（千円）A		11,698		11,698		11,460	
人件費（千円）B		15,078		15,078		15,078	
内訳	一般職員（人・千円）	1.33 人	8,778	1.33 人	8,778	1.33 人	8,778
	臨時職員（人・千円）	3.50 人	6,300	3.50 人	6,300	3.50 人	6,300

成果指標

	成果指標名	単位	26年度 目標	26年度 実績	27年度（目標）	28年度（目標）
①	町民の利用登録率	%	79.5	81.4	81.5	81.5
②	町民1人あたりの貸出冊数	冊	7.3	7.5	7.5	7.50
③	蔵書回転率	%	1.85	1.86	1.86	1.86

説明

（参考）人口類似団体（2～3万人）の全国平均（日本図書館協会調べ）
H25実績　①66.3%　②6.2冊　③1.2回
H24実績　①64.5%　②6.4冊　③1.2回

No. 17-9

事務事業評価シート１－２

事務事業No.	17 － 9

事業名	図書館運営事業	シート作成課	社会教育課
一次評価者	社会教育課長	二次評価者	教育委員会事務局長

評価項目の説明

	チェック項目	一次	二次	一次の評価又は説明
必要性	1．事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。	□	□	生涯学習活動が活発に行われるのに伴い、図書館の必要性は増しています。
	2．社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。	□	□	
	3．利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。	□	□	
	4．住民ニーズを上回るサービス提供となっている。	□	□	
	5．国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。	□	□	
	6．国や県のサービスと重複している。	□	□	
	7．民間のサービスと競合している。	□	□	
	8．厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。	□	□	
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	□	□	幅広く資料を利用することができ、レファレンスを行う図書館司書も複数配置していることから、質の高いサービスを提供することが可能で、その有効性は高いです。
	2．施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	□	□	
	3．施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	□	□	
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	□	□	
達成度	1．事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。	□	□	インターネットを利用したサービス（蔵書検索、予約、情報収集、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス）を実施し、利用者のニーズに対応しています。
	2．事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。	□	□	
	3．概ね目標を達成していると思う。	■	■	
	4．十分に目標を達成していると思う。	□	□	
効率性	1．効果に比べてコストが高い（他市町や類似業務を行う民間に比べて）。	□	□	他の市町図書館と比較しても、特に差はないと考えます。
	2．現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。	□	□	
	3．他の実施主体のノウハウを活用できる。	□	□	
	4．他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。	□	□	
	5．事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。	□	□	
	6．電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。	□	□	
	7．契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	□	□	

本事務事業の実施適切性の説明

図書館は、幅広い年齢層の町民が読書に親しむ場であり、また社会教育施設の一つとして町民の生涯学習活動を支援するほか、生活情報をはじめさまざまな情報を得る場としても機能しており、町民にとって身近な情報センターともなっています。

一次評価

評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	3	4	B ⑧⑦ / A 8 7 / D ⑥② / C ⑤⑥⑧

今後の方針	休・廃止	見直し	継続	拡大
			○	

今後の改革・改善目標

学校との連携（読書登山）も含めて子どもの読書活動をさらに推進していくと共に、近年利用が増加している高齢者への対応（トイレ洋式化等、施設環境の充実を含む）を進めます。
また、昨年度から開始した国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」の利用促進と雑誌スポンサー制度の推進を図ります。

二次評価

評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	3	4	B ⑧⑦ / A 8 7 / D ⑥② / C ⑤⑥⑧

今後の方針	休・廃止	見直し	継続	拡大
			○	

コメント

社会情勢の変化、利用者の多様なニーズを把握して、サービスの改善に努めていく必要があります。

二次評価に対する課の考え方	
参画協働の今後の方針	いつから　平成　　年度から　1　現在の手段を継続する